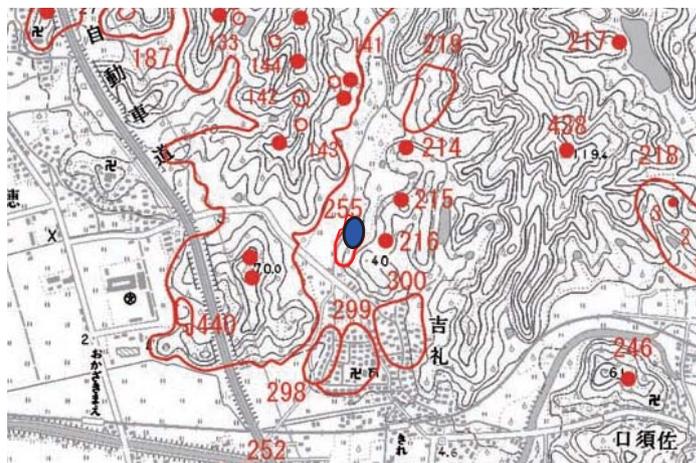


# 吉礼Ⅲ遺跡発掘調査現地説明会資料

—和歌山橋本線道路改良工事に伴う発掘調査—

## ◆はじめに

公益財団法人和歌山県文化財センターでは、和歌山県(海草振興局工務課)から委託を受けて、和歌山橋本線道路改良工事に先立ち、吉礼Ⅲ遺跡の発掘調査を実施しています。調査は、平成30年2月から約1,150㎡を対象としてており、調査区は、道路を挟んで北側と南側に大きく2つに分かれています。南側は、さらに排土置き場等の関係から南北2つに分けて調査を実施しました。



255. 吉礼Ⅲ遺跡

■ 発掘調査位置

## ◆吉礼Ⅲ遺跡とは

吉礼Ⅲ遺跡は、『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図(和歌山県教育委員会2007)』によると、弥生時代の散布地とされています。しかし、これまでに発掘調査が行われたことがなく、その様相はよくわかっていませんでした。

## ◆発掘調査の成果

発掘調査の結果、中世後半(15世紀後半～16世紀前半頃)の水田や畦畔、12世紀～14世紀の溝、鋤溝等を発見しました。とりわけ水田の一部では、溝と畦畔、水田、取水口が残っており、当時の状況がよくわかります。また、遺構からは瓦器や土師器、須恵器、中国製の土器(磁器)なども出土しています。こうした調査により、この地域は、中世に耕作地として利用されていたことが新たに判明しました。

## ◆まとめ

調査の結果、中世の水田や畦畔、溝、鋤溝等を発見し、当該地は中世には耕作地として利用されていたことが判明しました。こうした水田等は、文献資料から当時この地域周辺にあったとされる荘園「吉礼荘」の一部である可能性が高いと考えられます。和歌山には、当該期に高野山や粉河寺・日前国懸宮など地元の寺社だけでなく、石清水八幡宮・摂関家など京都の大寺社たちが自分たちの荘園を次々つくっていました。

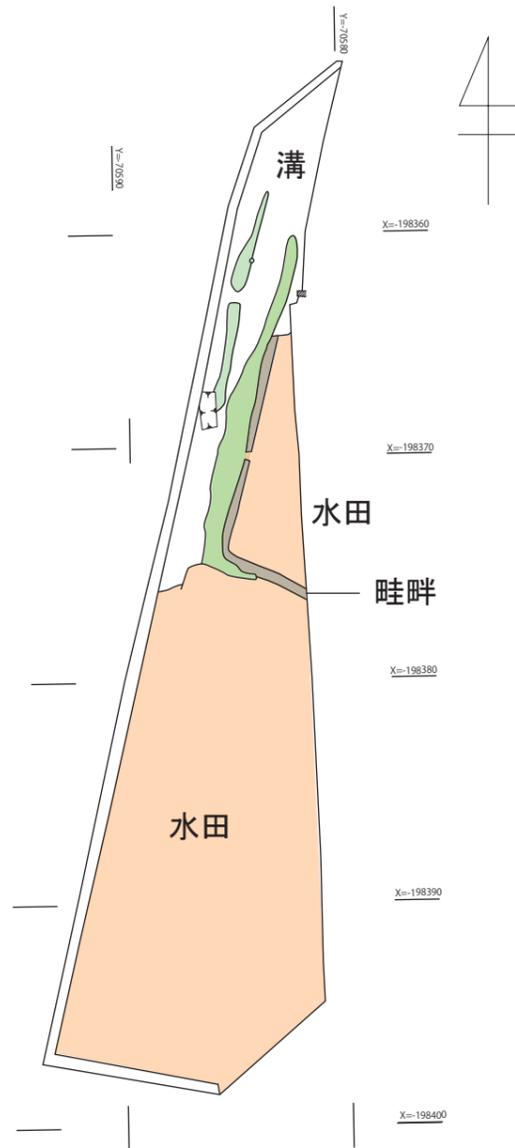
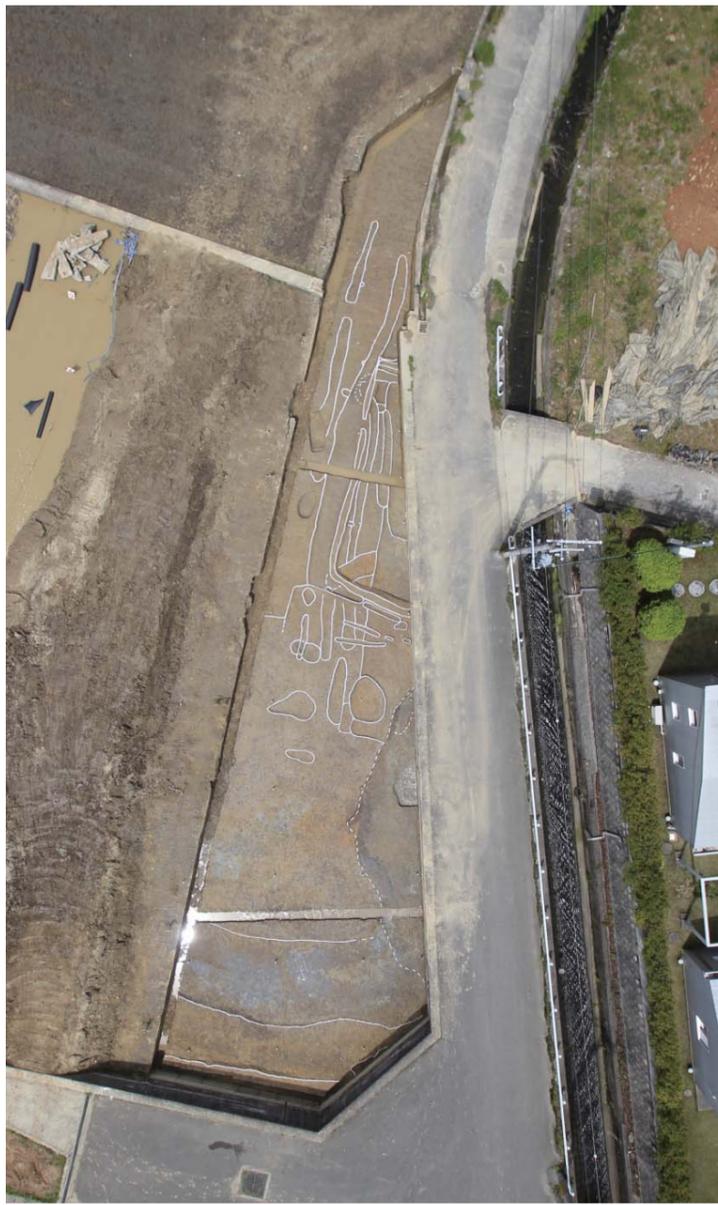
吉礼荘は、西に日前宮領和太荘、東に根来寺領山東荘があり強力な勢力が所領する地域のはざまにありましたが、両荘は各領主により荘園の開発が進む一方、両境界部にある吉礼荘はその恩恵に浴せず、奥地の他領に池をつくることで灌漑していたことから、日前宮や根来寺いずれか一方に完全に属していた地域ではなかったようです。また、吉礼荘に係る文献資料も少なく、その領主や実態もよくわかっていません。

今回発見した水田や水路等は、そうした文献資料からはわからない荘園の実態の一端を私たちに教えてくれる大変貴重な成果だといえます。



公益財団法人

和歌山県文化財センター



発掘調査中範囲  
(見学可能)



発掘調査終了範囲  
(埋戻し済)

- 中世の畦畔
- 中世の水田
- 中世の溝・土坑
- 小河川
- 中世以前の溝か

吉礼Ⅲ遺跡発掘調査成果模式図